



矢部川新聞

～矢部川新聞は「山から海まで未来につなぐ 矢部川をつなぐ会」が発行する流域の情報誌です～

発行
矢部川をつなぐ会
<http://www.yabegawa.net>

〒832-0068
福岡県柳川市城隅町18-9
TEL / 0944-75-5555
E-mail / info@yabegawa.net

八女・奥八女モニターチャンネルが企画され、九州のブロガーが星野村に終結、お隣り上陽町のみどりちゃんも参加してきたとよ。先ずは製茶園の工場を見学させていただきました。本当はグランドゴルフの予定やつたばてん、生憎の雨で急遽訪れる事となつたのです。でも、雨がふつてくれとつてよかつた。だって八女と言えば「茶」でしょ? そのお茶をPRするのに、製茶園さんは最高の場所やし最高の笑顔と気持ちの良い挨拶をして下さるスタッフもださったからです。そしてお茶の淹れ方教室が開かれました。みどりちゃんは阿蘇の寺小屋TAO塾の方と一緒にペアを組んで自分達で淹れたお茶を飲みました。さすが、八女のお茶は美味しい。皆さんもお茶の淹れ方で味が変わることを実感していただいたようですね。

次に訪れたのは棚田。まるで天に昇る階段みたいでしょ? 秋には彼岸花が咲くんやけど、その時期イベントが盛り沢山で未だ見に行けず: 来年こそはこの日の最後には、地元の皆さんも池の山に足を運んでください。交差点が開催されました。

2日目は「和菓子作り」

福岡県では、豊かな自然・文化・歴史に恵まれ、農業や伝統工芸産業などの多様な産業が集積する筑後地域の特性を活かし、21世紀型の新しい都市づくりを進める「筑後ネットワーク田園都市構想」(平成15年3月策定)を推進しています。

この構想のリーディングプロジェクト「筑後広域景観のルールづくり」では、川や海、田園、山々など筑後全体の地域資源として位置づけ、一体的に保全・整備する取り組みを進めています。

平成18年には、筑後地域の景観づくりの基本理念である「筑後景観憲章」を制

広域景観のルールづくり

定しました。また、先行モデルとして、平成19年5月には、地域団体・NPO、市町村、県、国の関係機関等が、矢部川流域の景観まちづくりを総合的に進めるためのテーマや目標、方針等を定めたマスター・プランとした「矢部川流域景観計画」を策定しました。計画全体の対象区域は、流域の柳川市・八女市・筑後市、みやま市4市の区域です。ただし、景観法に基づく行

とになります。この計画では、広域的な景観形成に影響のある一定規模以上の行為を届出匠等について、景観形成基準への適合を求めています。また、筑後地域においては、矢部川に続き、筑後川流域においても昨年10月に「筑後川流域景観計画」を策定しました。

この計画では、地域的ないまちづくり条例に基づいて景観の保全・形成のために様々な取組を行っています。「景観大会」はその一環として、福岡県美しいまちづくり協議会の主催で開催するものです。本大会は、県民の皆さんに身近にある風景の大切さに気づい

ます。『景観大会』はその一環として、福岡県美しいまちづくり協議会の主催で開催するものです。本大会は、NPO・まちづくり団体、教育研究機関、市町村、県のパートナー・シップによる効果的かつ継続的な美しいまちづくりを進めるために組織しました。(福岡県建築都市部都市計画課)

為の制限に関する事項は、景観行政団体※(柳川市、八女市)を除く2市の区域

のダッシュは入っていないのだと。この味噌はそれだけ美味しい味噌なんですね。やっぽり田舎に来たら田舎料理ば食べたかにや。」

2日間あつという間に集中モード。一人また一人と話すのを止めました。ご主人が帰ってきて「皿をかく。しかし、十箇条の奥に集中モード。一人また一人と話すのを止めました。ご主人が帰ってきて「皿を

に集中モード。一人また一人と話すのを止めました。ご主人が帰ってきて「皿をかく。しかし、十箇条の奥に集中モード。一人また一人と話すのを止めました。ご主人が帰ってきて「皿を

八女市の観光振興課の一策として2日間の茶のくに八女・奥八女モニターチャンネルが企画され、九州のブロガーが星野村に終結、お隣り上陽町のみどりちゃんも参加してきたとよ。先ずは製茶園の工場を見学させていただきました。本当はグランドゴルフの予定やつたばてん、生憎の雨で急遽訪れる事となつたのです。でも、雨がふつくれとつてよかつた。だって八女と言えば「茶」でしょ? そのお茶をPRするのに、製茶園さんは最高の場所やし最高の笑顔と気持ちの良い挨拶をして下さるスタッフもださったからです。そしてお茶の淹れ方教室が開かれました。みどりちゃんは阿蘇の寺小屋TAO塾の方と一緒にペアを組んで自分達で淹れたお茶を飲みました。さすが、八女のお茶は美味しい。皆さんもお茶の淹れ方で味が変わることを実感していただいたようですね。

次に訪れたのは棚田。まるで天に昇る階段みたいでしょ? 秋には彼岸花が咲くんやけど、その時期イベントが盛り沢山で未だ見に行けず: 来年こそはこの日の最後には、地元の皆さんも池の山に足を運んでください。交差点が開催されました。

2日目は「和菓子作り」

昼食はごとうさん家の体験工房で田舎料理をいたしました。大根、こんにゃく、里芋の煮付け、どれも絶妙な塩加減。味噌仕立てのだんご汁には椎茸以外

作るのはそんなにさうといつかんですよ」と親父ギヤグの連発。陶芸家って気難しい人ばかりかと思つたばてん、こんな楽しい交流をしながらの体験ができることなんて、やっぽり星野は素晴らしい。

昼食はごとうさん家の体験工房で田舎料理をいたしました。大根、こんにゃく、里芋の煮付け、どれも絶妙な塩加減。味噌仕立てのだんご汁には椎茸以外

【じいたけ菌うち】
◆日程：2月13日(日)
9時半～15時半くらい
集合：えがおの森
(八女市黒木町)に9時半原木栽培椎茸の菌うち作業です。直径5～30cm、長さ1mくらいに切ったクヌギ原木に、小さな種ゴマを金づちで打ち込みます。
◆参加費：一般1,000円、山村塾会員無料、3歳以下、無料。
◆参加料：子供1,000円(昼食付き)
大人100円(昼食は各自併設のレストランでお願いします)。

【巢箱かけとバードウォッチング】
◆1月30日(日)13時～
参加料：一人100円
【巢箱作りと野鳥観察】
◆2月13日(日)10時半～
参加料：子供1,000円(昼食付き)
大人100円(昼食は各自併設のレストランでお願いします)。

昨年、各地で起きたクマと人間の不幸な事故。子どもたちも手伝えます。
◆参加費：一般1,000円、山村塾会員無料、3歳以下、無料。
◆持ち物：汚れてよく寒くない服装(長袖、長ズボン、帽子、作業靴)、軍手

募集人数：15組
※両日とも集合は、ほたると石橋の館(八女市上陽町)申込み・問合せ先 NPO法人グラウンドワーク福岡ほたると石橋の館TEL 0943-54-2150
申込み・問合せ先 山村塾TEL / FAX 0943-42-4300
※金づちを持っている人は持ってきてください。



森は海の恋人運動の畠山重篤さんも宮城県から駆けつけた

「干渴再生の“秘密兵器”：溶存鉄の効果」と題して、フルボ酸鉄が有明海再生につながる可能性性を話題提供された。

慕う会代表畠山重篤さんが「汽水に生きる—森が海を育む」を豊富な経験とともに講演された。続いて第2部では、筑後川の流域一体化を進める鍋田康成さんと財津忠幸さん、ならびに熊本県緑川で同様の活動を進めておられる浜辺誠司さんが活動報告された。その後講演会に参加いただいた皆さんが



海苔の繁忙期のなか出席の浜辺さん

果として、溶存鉄を使つて、干潟の再生実験を行う複数の漁師さんが現れることも、講演会を縁の下の力持ちとして支えた多くの地元の皆さんのが元気を得て、今後もこのような取り組みに積極的に関わる流れが生まれた。

第1回 有明海再生講演会 「森里海連環に 基づく有明海 再生への道」に 参加して



ところが、有明海は私が育つた頃に比べ、干涸を少し掘ると鼻が曲がるほどの悪臭を放っています。昨年、生物部では干涸の深さによるシルト質の粒径の変化を測定しましたが測定データを出すことより、匂いが有明海の干涸で何が起こっているのか物語つてゐるよう思います。そもそも、有明海に注いでいる一級河川、矢部川の源流・福岡県の最高峰である糸岳にはブナが残っています。

多くの人の努力で矢部村には御前岳の南西に“源流の森”と呼ばれる原生林が残されています。この原生林を手本にこの地域の自然林を再現するのもひとつ的方法でしよう。しかし、現在、有明海の疲弊により収入を失った(奪われた)漁業関係者への保障など、急がなければならぬ事もあります。

”明日のために今しなければならないこと“、”将来のために今しなければならないこと“どちらも大切です。

(八女高校 生物部 木庭 慎治)



田中克(実行委員長・京大名誉教授)

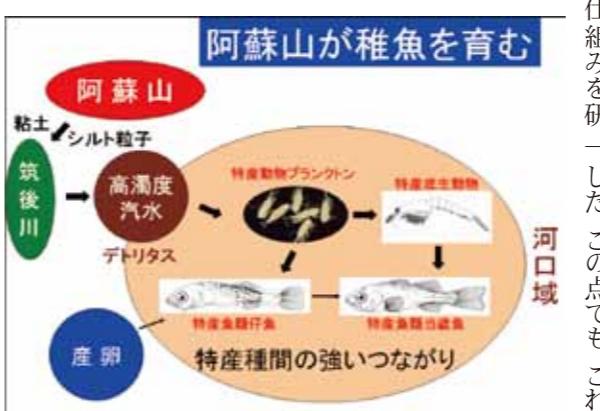
10月30日(土)午後、柳川市三橋町公民館において第1回有明海再生講演会が開催された。これまで多くの同様の講演会が有明海沿岸各地において行われてきたが、この講演会はこれほどまでに疲弊した有明海を元に戻すには、小手先の対応ではなく、その大元から見つめ直すことにより、流域全体の共同作業として再生した有明海を子供や孫に送り届けることを目

的にした点において、これまでの取り組みとは全く異質と言える。具体的には「森里海連環に基づく有明海再生への道」に踏み出す出発点として開催された。また、第1回講演会としたのは、この深刻な有明海の再生にはじっくり腰を落ちさせて、筑後川流域全体（流域から筑後川河口沖までの再生を目指す必要があり、今後5～6年間は毎年同様の趣旨で、筑後

この第1回有明海再生講演会は、この海で30年以上にわたりここにしかいない工
で、次年度には時期を考
え、事前の広報を十分にし
た上で開催して欲しいとの
要望がなされた。

つながる想い

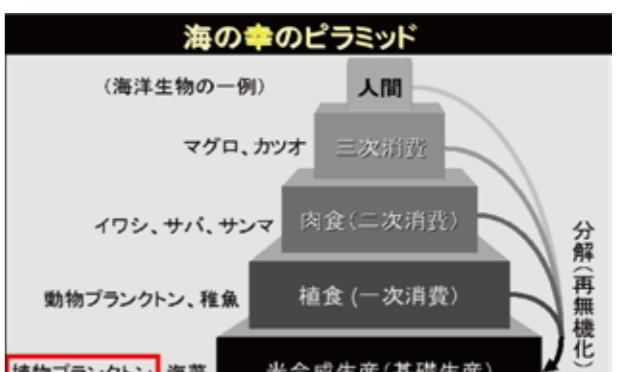
都大学名誉教授の中克（京大）は、これまでの研究成果を基礎にして有明海再生へいくらかでも貢献したいという思いが、地元でNPO法人有明会や矢部川をつなぐ会などで活動さ



阿蘇山が有明海の魚を育む(田中氏)

講演会は、松富士さん（日本野鳥の会会員）の司会のもと、第一部では「阿蘇山が有明海特産稚魚を育む—母なる川筑後川」（田中克）に続き、深海から砂漠や南極までを駆け回り生命の仕組みを探る広島大学長沼毅准教授が

川流域各地において開催する予定に基づいている。



植物プランクトンがピラミッドの底
海の幸はピラミッドで考える(長沼氏)



ガラス（シリカ、二酸化ケイ素）の殻をまとっている。
鉄分があるとよく増える。

